

2018 年度 立命館附属校 教師塾（新任研修） X

附属校教育研究・研修センター

最終回である第 10 回教師塾を 2 月 5 日（火）に実施した。

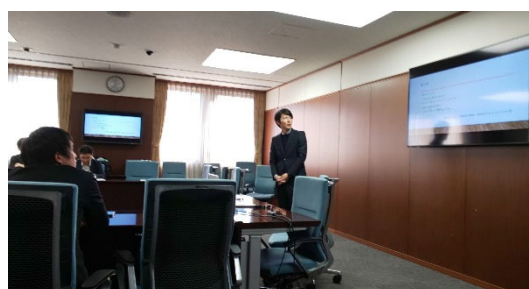
今回は、教師塾の総括として受講者が「私の今後の抱負」というテーマでプレゼンテーションを行い、受講者及び参加いただいた附属校執行部及び一貫教育部職員から質疑応答を受けるという研修であった。

参加者は受講対象者 11 名（立命館中高 2 名、立命館小 1 名、立命館宇治中高 5 名、立命館慶祥中高 3 名）であった。今回立命守山高等学校が入試業務にあたり参加できず残念だった。

しかし、欠席した受講生からビデオメッセージが届いたり、いつも TV 会議での参加だった立命館慶祥（北海道）の受講者（3 人）が直接参加できたりと京都と北海道との附属校同期採用者の情報交換も出来た研修であった。

【研修の記録】

プレゼン画面及び発表場面の紹介（一部）



立命館だからできる英語教育

立命館宇治中学校高等学校 英語科 谷 英樹

プレゼンの共通するテーマは「私の今後の抱負」であったが、次のような様々な切り口でこれからどんな教師をめざしていきたいかを受講生は発表した。

- ・ 尊敬する人物を紹介し、学び続ける教師への道
- ・ 10 年までの目標の提示
- ・ 教科として育てたい生徒の姿
- ・ 生徒指導、部活動指導、クラス経営
- ・ 中高一貫教育しかできない教科指導の実践
- ・ R2030 を見据えた学校改革の意欲

（文責：附属校教育研究・研修センター 羽田 澄）

《受講生の感想》（抜粋）

○A 先生

同じ新任の先生方がどのような方向性で、自分を高め、どう「立命館」と関わろうとしているのかがわかったし、ユニークな授業の方法や、これからの教育のあり方などが聞けたので、有意義であった。今回は、時間もなかったので「発表」のみだったが、全員それぞれ発表後に、新任の目線だけでなく、先輩方からコメントなどもらえたほうが良かったかと思った。

1年間ありがとうございました。

○B 先生

今回は、同じ新任教員の皆さんの展望や想いを聞くことができ、大変有意義でした。教科や学校は違えども、同じ立命館の仲間が、学園の将来を一生懸命考えたり、自分の使命について想ったりしていることは、私にとっても強い刺激になりました。現状、自分の力の無さや、学園のためにできることの少なさに情けなくなることもあるのですが、諦めずに挑戦していきたいです。

一年間の研修の中で、自らと向き合うことや客観的に自らを見るきっかけをたくさんいただきました。研修センターの方々、講師の先生方、本当に有難うございました。

○C 先生

各附属の先生方がそれぞれのビジョンを掲げ、自分の今後と向き合っておられた。共通するところは、立命館学園に所属する教員として、いかに生徒と向き合い、それぞれの可能性を広げていくかというところにあったと思う。そして何より、この教師塾で出会ったメンバーとは、戦うステージは違えど、同期であり、志を同じくする仲間である。そんな仲間と出会うことができ、心からうれしく思うとともに、今後も共に磨きあっていきたい。

○D 先生

同期である先生方の抱負を聞き、自分自身と比べて、非常に広い視野、先を見据えたビジョンを持っていることに感銘を受けた。私自身、英語教育というものに対しての知識があまりなかったこともあり、今年一年間は、ひたすら目の前の生徒がどうすれば目の前の課題をクリアできるのか、さらに言えばどうすれば、授業に集中して臨むことができるのかに終始し、視野が狭くなっていたのではないかと。来年以降は、生徒の英語力を伸ばし、人間的に成長できるよう、長期的な目標、大きな視点を持って生徒の指導にあたりたい。

○E 先生

この1年間、学校内では担任・教科・分掌・部活などの多くの業務の中で目の回るような日々を過ごしてきたが、教師塾を受講している間だけは初任者ということ意識することができ、スタートラインに立って様々な視点から教育や立命館について学ぶことができた。最終回は京都でのプレゼンを経験し、周りの初任者の上手さに驚くとともに、より刺激を受けることができた。今後も、切磋琢磨しながら互いに頑張っていける仲間だと思っている。1年間ありがとうございました。

○F 先生

9回の教師塾の内容の多様性から、教員が持たなければならない視点が多岐にわたることをあらためて認識することができた。これまで複数の業界で仕事をしてきて、それなりに経験と実績を積んできたつもりであったが、人を育てるという視点に立つと、まだまだ引き出しが足りないことを思い知らされた。教員としての基礎を学ぶ一方で、自分にしかできない仕事を、しかも独りよがりにならず波及効果のある仕事を見つけなければならないという思いを強くした新任研修であった。

○G 先生

今回の教師塾は、それぞれの「抱負」を発表するというものであった。同期の教員のこれから

の「抱負」を聞くことは、お互いの目標を共有し、刺激し合うという意味でも意義深いものであり、感銘を受けるひと時であった。

だがそれ以上に、それぞれの教員が感じた「勤務校の課題」に、私は興味を持った。同じ立命館の附属校においてすら、抱える課題はそれぞれ異なる。その課題を克服するため、それぞれが何をすべきと考えたのかを知ることは、自身の勤務校の課題を相対化し、あらためて教育とはどうあるべきかを考えるうえで重要であり、今回の研修ではそれを学ぶことができた。

○H 先生

APU 研修では、同期である附属校の先生方と寝食を共にし、多くのことを語り合い、皆が立命館の教員として同じ目的に向かって日々の教育活動を行っていく団結心を養うことができました。また、附属校卒業生のプレゼンテーションでは、日々関わっている生徒にどのような教育活動を行えば、彼らのような高い人間性を身に付けられるのか考えさせられ、長期的な視点での生徒と関わり合いが大切だと思うきっかけとなりました。

○I 先生

新米である自分にとって、普段の生活は多くの仕事に追い回されながら過ごす日々でした。そのような生活の中で新任研修は腰を落ち着けて様々なことを学ぶことができる貴重な機会でした。研修の内容は非常に多岐にわたっており、立命館の教員として要求されるレベルの高さを感じることができました。また、同期の先生方は経験のある先生も多く、熟練度の違いに焦りながらも、たくさんの刺激を受けることができました。

○J 先生

この1年間新たな職場で過ごし、新鮮ではあったが戸惑う部分も多くあった。これまでは同じ環境に身を置き、今までの経験の中でのみ判断してしまうことが多かった。しかし、環境が変わる中で、この研修を受けて、新任の先生方のフレッシュさに触れ、学び直しをする機会をいただき、多くの刺激を受けた。これまでの経験を踏まえつつ、いつまでも挑戦することを大切にして、創造的な発想を持ちながら目の前のことに取り組める教師でいたい。

○K 先生

教師塾の研修は大部分がとても楽しかったです。私は10年以上立命館に勤務しています。この研修で立命館について多くのことを学ぶことができました。他の附属校の先生方や職員の方々にお会いできたこともよかったです。いつも興味深い内容を学びました。最も学んだことは学園が今取り組んでいることや将来のビジョンについてでした。教師塾で最も価値のあった研修だったと思います。

研修内容を追加できるとすれば、アクティブラーニング、21世紀の目標、R2030について学ぶ研修があればと思います。大変興味深く、立命館学園の今後について理解するのに役立つと思います。

○L 先生

今後の立命館を担う一員として、学校にどれだけ貢献できるかを考えていく必要があると改めて感じた。授業力や生徒指導力という教師としての力に加え、人格者としての立ち振る舞いもその中には含まれる。現状を踏まえて、5年後・10年後に自信がミドルリーダーになった時に学校を引っ張っていくことができるように今から少しずつ準備をしていきたい。立命館を外から見た時の自身の経験も財産にし、立命館学園に貢献できるような人であり続けようと思っている。